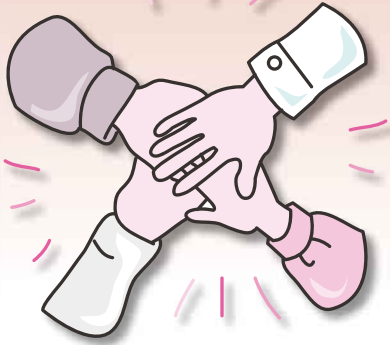


協働とは、市民福祉向上のため、市民が自主的に取り組んでいる活動、また行政が主体的に取り組んでいる事業において、共有する領域については対等の立場で相互に力を合わせて目的のために協力し合うこと
 〈指針「がまごおり協働のまちづくりに向けて」より〉

協働のまちづくりって…

～モデル事業を通して～



全国各地で取り組まれている「協働のまちづくり」。皆さんはこの言葉を耳にしたことはありますか。また、「協働って何」と言われて、どのようなイメージが思い浮かびますか。

「協働」とは、「みんなのまちはみんなでつくろう」という考え方のもとに成り立っています。

この協働のまちづくりについて、蒲郡市では、平成18年に2つのモデル事業を展開してきました。この2つの事業から、皆さんが考える「協働って何？」の答えをイメージしてみてください。

企画広報課 ☎66♦1162

モデル事業



〈協働した団体〉
 ステップしおさい、オレンジホーム、MTN協議会、蒲郡市観光協会、いきいきビーンズ、さがらの森もりクラブ、竹本油脂(株)、株出雲殿、市役所商工観光課・福祉課・清掃課

障害者が安心して暮らせるまちづくり

〈実施団体〉
 ゆうぎネットワーク
 (市民団体)

障害者は、地域社会でまだまだ理解されていません。また、障害者自立支援法によって、自立するには程遠い、低い収入で生活しているにもかかわらず、更なる負担がかかるようになりました。そのため、障害者もつ子どもの親としては、今までよりも子の将来が心配です。そこで、労働体験を通して、障害者が社会参加できるように、また、安定したビジネスの仕組みを作りたいと考えました。

モデル事業として、自立できるビジネスを目指し、綿の生産から三河木綿作り、廃棄ろうそ

くを収集してのろうそくの再生、廃油石けんづくりを手がけました。

事業をすすめていく中、いろいろな分野の方とのつながりができ、助言やノウハウをいただきました。特に、ろうそくや石けんづくりにおいては、地元企業さんの協力をいただき、事業目標への道が開けました。

今後は、いろいろな製品の事業化に向けた具体的な研究を続けながら、より多くの障害者が社会に出ていくことができるようなシステムを作っていきたいと思えます。

モデル事業



〈協働した団体〉
 蒲郡南部小学校、地元総代、地域ボランティア、蒲郡地域茶の間の会、東海警備グループ、蒲郡警察署、教育委員会、市役所安全安心課

子どもの健全育成と安心のまちづくり

〈実施団体〉
 子どもの安全を守る会
 (市民団体)

私たちは、『子どもたちを理不尽な暴力から守りたい、子どもたちを暴力に頼ることのない人間に育てたい』との思いを持った、小学生の子を持つ母親の団体です。

モデル事業として、地域や警察、市の皆さんとともに、どのようにしたら子どもが安心して暮らせるまちづくりができるかを、蒲郡南部小をモデル校として行いました。

まず、私たちが3匹のこぶたにふんした寸劇で、危険場所の察知や回避を覚えてもらいました。また、子どもの目線で見ただ通学路の危険な場所を、小学校

の全児童と地域の皆さんといっしょに見つけ、安全安心マップを作りました。これらの活動の効果は大きく、通学途中の地域の人からのあいさつが増えました。

これだけでなく、子どもたちが活動を通して得た思いを「子ども議会」にて、市長さんや地域や警察の皆さんに真剣に聞いていただき、防犯灯やイメージハンブをつけていただくなど、子どもに安心感を与えていただきました。

この活動が、市内全部の子どもたちが安心して暮らせるまちにつながっていくことを願っています。